



畧譜

跋

大鶴 大野 大藏 大谷

大類 大瀨 大紫

二百十一册ノ内

ヲノ部現共十五

和		西	
五六	三六	二八	九
函	冊	冊	冊
吉田			

391

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(46)
函號	156 17

共十二

畧譜

跋

大鶴 大野 大田 大谷

大類 大瀨 大葉

二百十一冊ノ内

7/1 現共十五

和	
三六八	二
五六	九
架	冊

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(46)
函號	156 17

共十六



源姓

大瀧

新田大炊介義重孫里見左衛門義俊
次男美濃國行人大瀧左衛門義継古代
大瀧左近衛督光宗長男

大瀧雲八

基八 精八

記録御用所

家藏 上羽蝶

子四書名



光義
初光吉
永正年中光義孤獨の身成て濃
正長の時國人と北へつゝひ合致

へじこにかかへし先義者よ果てしなく敵一人
 へ射殺さるは法也とてくわゆる
 海軍大臣諸國をく敵とて成るらりし
 味方めく群鳥とて一人の敵を法也とて
 へ先義者とらりし先義者らとてく相向
 てはれしと敵と射殺しは武射敵も樹陰
 かしはしとて先義者樹と射つたつと敵
 の首をあわらる敵も先義者らと樹と敵
 その樹とへしひ首と切く其矢とぬり

此の書は先義者の大教として前者の所を國人も意におひて先義者大教の方には合ふとて取て先義者大教に
 先義者の自らしは捕りて先義者大教

へ先義者もいかににたらく武射の合戦
 へ先義者もいかににたらく武射の合戦
 へ先義者もいかににたらく武射の合戦
 へ先義者もいかににたらく武射の合戦

権現塚に身をたれしは先義者
 長井年人某美濃國山縣村某者也

の居城と青ヶ谷の時敵中より松山守り
せし町の本戸にゆく是より少く
年人小属し本戸より少く敵を
討たりし又長谷川基高を討た
て本戸より少く青ヶ谷より少く敵を
討たしこれより少く本戸より少く
町守に致ししなり其國の亂
はしき亦者少く敵を討たし長井年
人の防戦の時之義他より少く
既少本軍兵より少く

さかしく河の之義は日友若大後
より少く敵を討たし是より少く
本戸より少く敵を討たし是より
少く本戸より少く敵を討たし是
より少く本戸より少く敵を討たし
是より少く本戸より少く敵を討たし
是より少く本戸より少く敵を討たし
是より少く本戸より少く敵を討たし
是より少く本戸より少く敵を討たし

常井年人は國が河川村佐倉江伊より敵を
討ち敵賊中より少く相打ちし此時之義
は討たかしく此國は昔より少く
本戸の城となりしは少く此國は昔より

うを成し〜〜〜敵軍人と射し終りては長
是と感て同二年は長江に兵を張
く軍陣のたに源井の軍士味方のり
りとうたんとはは長軍軍回修理ふ令
くをのりひさしひる〜〜〜光義は長
乃中か〜〜〜軍回相らり〜〜と
まらり〜〜〜向かたは元年越前の軍
士は兵を張〜〜〜引とる〜〜年すは
は長とら〜〜〜敵のう〜〜はとら

光義は陣ふ〜〜〜敵と射か〜〜は
是と感て同二年は長江に兵を張
のは後退のたに光義は切つり同二年
は長自殺のたに光義は去の敵はつらと
〜〜〜城軍の去平陸初〜〜敵とす
うをひ〜〜〜若きと〜〜〜地ま
か〜〜〜光義は〜〜〜は國ふは知り
〜〜〜に幸國ふ〜〜〜ははふて
一揆は起りて光義は〜〜〜ははと射

らうひらけぬく 申國ふかゝるては 彦彦
か属くくろ大ねとたり 或時彦彦の命
とらけく 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は

権臣頼重 國山 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は

彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は

彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は
彦彦の命は 彦彦の命は 彦彦の命は

の四後中其意なりしは可成大勢之辭
と稱成をそのら政府ふといへ

権威極 ともふはえ其の志なり、
のその後兼く此可成たるは野の
いといは法人をす其のら河清
子とわつらんをいひしは
任事はるその志と河威は極なり
豊後國杵臼の城は極なり
え其の月をいひしは身は極なり

正純 上意のなりしこと何れも
しをいふ其國の長官事業も
か子孫に用ふこと何れも
及中元と其の政府近國
此は方なりしこと何れも

権威極なり其の上野の志
其の志は極なり 上意の志
ともそのらをいひしは

其義其たの口はしるしに

生國するものる類くは成ふはは法國
畢せしは小彼地をさ成かはなり
口はしと事ふるくは社を二年並彼地
近き格は國のちらにしく口加増二万石
はも全級合をさひ多石余は洋似は此の
以後芝義と 行市と成ふも 上意ま
大人とあふ余はは為成りたはるる樂
のは分 中意し 上意と成りその後
格は格 上意し 南に任置る秋ふふの

涉奪身見二條とさ下之義
五所新格へ山目んてはは政府は入る
のそ半時高西府中をさくは格傷
と 行見とのち江格傷の地しくは見
とがしつる或時格見より業入と
格は格(秋)はとて芝義と成りてはる
右徳儀格より格高と成りてはる
口加増と成りてはるはははははは
小全は是成と成りてはははははは

平の後之氣治所へ来りてあり

権左衛門沖波(百三)と云ふ石原天棟より

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

と云ふ人々を御守りしにせらるは

光政

光政

弱年之時常山氏と戦く並藤原公敏が位
を曰國の位人武市喜兵衛曰右京右衛門人
と曰わく一領を領射光政の居城とせしむ時
光政敵教人と射とせしむ城とせしむ
戦く勝利とせしむ曰國の位人武市喜兵衛
森武光と信武と射新帝の属とせしむ
光法と敵と武市の信とせしむ一見ある光

光朝 言

千言千言花中言
信武喜兵衛藤原
鳥羽浪子傳抄
家入武

改り一派めく是とせしむ曰國の位人武市喜兵衛
伊丹の城とせしむ時信武喜兵衛の属とせしむ
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光
光政の同友系今た是とせしむ一見ある光

陣前様倉野 遊覧とせし新太郎少将少
 大敵とせしとせし新太郎少将少
 美濃守とせしとせし新太郎少将少
 道徳とせしとせし新太郎少将少
 合戦のころとせし新太郎少将少
 とせしとせし新太郎少将少
 後者丹羽長秀とせし新太郎少将少
 徳田とせしとせし新太郎少将少
 和らとせしとせし新太郎少将少

の付丹羽長秀とせし新太郎少将少
 にせしとせし新太郎少将少
 二人組の内少とせし新太郎少将少
 右の幕下とせし新太郎少将少
 とせしとせし新太郎少将少
 て事流とせしとせし新太郎少将少
 追拂とせしとせし新太郎少将少
 後陣の後光とせしとせし新太郎少将少
 の格内とせしとせし新太郎少将少

使節より朝鮮へ渡河仕歸りし
船中より介志の軍切と秀吉の古慶
長子屋平一関と東洋陣と云

程氏孫より進父重八義我死後を以て一
半の存内家分下月十日貞年七月
有

程氏孫より進父重八義我死後を以て一
半の存内家分下月十日貞年七月
有

永正二年七月十日自出判物及裁其後
左に及りて陣と云はれ其後と
初

程氏孫 蒙節と云

右進源孫

大猷源孫 上奉仕

右進源孫より河原江中を以て合給所被

河原より河原江中を以て合給所被

死に格威麻布中村右兵衛守と云

光盛

大治元年

平家隆盛公の御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に

義唯

大治元年

平家隆盛公の御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に

大治元年
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に

御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に
御書に御書に御書に

義重

大治九年義重十四歳年九月五日生於江之國地也
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重

大治九年

大治九年九月五日生於江之國地也

大治九年

大治九年九月五日生於江之國地也
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重

義重

大治九年

大治九年九月五日生於江之國地也
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重
幼而岐嶠天授之清美唯祖父重公先義重

在房大抵慎重之政人甲府心敏在番〇万
治元成年坊上守大之番〇寛文元年也
年三月廿五日殖所加番因年有月之叙
而公系上自自久因年定八月廿一日
二宣年十月八日瑞瑞〇因年二月三月
二日帝法公系新田山菅信守行〇因七
未年二月廿一日新田瑞出〇因年有月廿日
瑞瑞〇因所加番因年定八月廿一日九日
年八月廿一日因东立之瑞瑞〇因年有月廿日

有月廿一日とお勤〇延宝六年一月九日景
山瑞瑞〇向月廿一日因年定八月廿一日九日
山瑞瑞〇向月廿一日因年定八月廿一日九日
山瑞瑞〇向月廿一日因年定八月廿一日九日
山瑞瑞〇向月廿一日因年定八月廿一日九日
山瑞瑞〇向月廿一日因年定八月廿一日九日
山瑞瑞〇向月廿一日因年定八月廿一日九日
山瑞瑞〇向月廿一日因年定八月廿一日九日
山瑞瑞〇向月廿一日因年定八月廿一日九日

宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日

宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日
宣和元年十月五日

義也

宣和元年

宣和元年

宣和元年

宣和元年

宣和元年十月五日

年八月六日家督才因情与最人言下旨石
分公の以大中年四月由白河遷番の同年
六月日之西國代七月由府の同年十二月
十八日布衣の同七年正月今皇威河越城
川渡月以白出所の同年二月皇瑞福の
同年四月今皇出國月八月八年十月
十月日皇出國門用六月形山用所為皇
兵討指三〇日年十二月皇中瑞出國用月
年十二月皇出討指三〇日九月五年二月七在國初

日以皇出討指三〇日年十二月皇出討指
合五枚討指武親儀の同十五年九月形新
番次の同十五年十二月皇出討指 大使月
月十日皇出討指同年十二月十日由府の同十二年
一月皇出討指同月九年九月皇出討指
日法皇の同十六年七月皇出討指
の同年十二月皇出討指
元年十二月皇出討指
三年十二月皇出討指

長官院極中書令 行府送使等の同年
十月晦令之役時夜之始歲の月日庚午六月
二日切舟並門改改の月午七月日自出
居死凡死之官樂出死の月午七月日自出
九初の喜保二百年十二月十日
此所及之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月

此所及之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月
之役時夜之始歲の月日庚午六月

義連

大正書

月日

義房

室永六子年巳月十日自山國入の事保仁美
年二月移父莊前より山國目如初の月
夫北江江月同年三月十日自山國初月
正百七夜に江國入に江武格取存候
同年八月八日武格取候日守身

室永國情より事合忠候
大沼重八

夏松 守身

室永六子年十月十日自山國入の事保仁美
十月十日自山國入の事保仁美
十月十日自山國入の事保仁美

義里

又の月八日年十月十日自山國入の事保仁美
九月移江國入の事保仁美
初備の家曆二年十一月八日移江國入
歲以守身

大沼重八

冬之節 守身

陽后 湯泉

延享元年一月十日自山國入の事保仁美
九月十日自山國入の事保仁美

明書出所の月八寅年十一月の湯湯の河和
六也年八月五日火津波の因年十二月八日布
衣の月九在年二月九日江戶大太長衣在成
防夫方而九人較之續入在防事情に成事
門地家 上意の女中三年十一月の山書
法理花の因也成年八月有而長津社延
以の月年十二月六日往來文の月八寅年寅月
去日也知知の去所元也年八月五日也
初の月八在年十月八日山書津波書以の月八

中華二月九日以上多事也 上院の因年
四月十日屋敷の上夜四月十日停湯の書成
二也年二月八日病光の月年七月九日湯湯
日早年七格也朱能日等二并

義和

上院書入

新加

三回書入

女中二箇年十一月九日山書入の書成以二
成年七月九日家格の月年十二月八日
明上の上意也 上院元 官政五年 書成也

加治元年... 西暦... 日本... 徳川... 寛政...

善徳

大鳴... 兵庫

寛政... 徳川...

家傳... 徳川... 寛政...

徳川

大徳

大徳...

善徳

大徳...

徳川... 寛政... 徳川...

元如之御年 四月七日辰方より表御方境
より東之邊池向御方合戦於し御討死二千
七百人傷御捕りて之より東之山に成御死來村
御討死御方及言上は云

春改

大徳元年

元如之御年 四月七日辰方より表御方境
より東之邊池向御方合戦於し御討死二千
七百人傷御捕りて之より東之山に成御死來村
御討死御方及言上は云

元如之御年 四月七日辰方より表御方境
より東之邊池向御方合戦於し御討死二千
七百人傷御捕りて之より東之山に成御死來村
御討死御方及言上は云

好

大沼左衛門

徳十郎

甲州府之原守年一月廿八日死

ナカヨシ

中豫

大沼左衛門

大沼左衛門

元禄四年十二月廿八日死
享保三年七月廿八日死
享保三年七月廿八日死
享保三年七月廿八日死

モト
株豫

大沼左衛門

享保七年十一月廿八日死
享保七年十一月廿八日死

美好

中沼左衛門

大沼左衛門

大沼左衛門

享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死
享保九年十一月廿八日死

光武

天保元年
大正新物

光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日

光武

大正新物

天保元年

光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日
光武元年十二月十九日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

新義



源姓
大務
大務後之儀射元以治事

家後將連上羽

子六百名

義唯

大務後之儀

節義

增
大務在室

七卷

○
崇安之富平十一年六月百石分給の月
為九石計組の以在平進物由番口寛

文正五年十一月廿八日死里位之麻
布中村天直等事

義淳

和義延

大澤織部

山部

左衛門

延宝元年七月廿二日死里位之麻
布中村天直等事
廿二日大津傷月日
廿二日大津傷月日
廿二日大津傷月日
廿二日大津傷月日

人氏の京原之御年宵月

淨土院所紀
元正五年十一月廿二日
元正五年十一月廿二日
元正五年十一月廿二日
元正五年十一月廿二日
元正五年十一月廿二日
元正五年十一月廿二日

義勝

大澤知貞

西德元年十一月廿二日死里位之麻
布中村天直等事

三年申年四月廿七日
六月九日

美濃守の長教三郎

大津織部 幸而 在書信後

義陳

享保八年十二月廿七日
寛政八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日

〇以三年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日
享保八年十二月廿七日

義元

美濃守

大津織部

享保八年十二月廿七日

年三月廿二日
布衣の口は
の口は
三月廿二日
四月廿二日
五月廿二日
六月廿二日
七月廿二日
八月廿二日
九月廿二日
十月廿二日
十一月廿二日
十二月廿二日

元正
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月



源姓

大納言

家後梅村三連左衛門
梅子
三音依

大納言

義經

大納言

寛永十二年
四月廿二日
五月廿二日
六月廿二日
七月廿二日
八月廿二日
九月廿二日
十月廿二日
十一月廿二日
十二月廿二日

葬

光長

大治元年八月

安宅

寛文三年十一月廿七日
年八月廿一日
口寺

光春

大治元年十月

平太夫

之福六年七月廿二日
年二月廿八日

保長
保長
保長

保長

大治元年八月

安宅

正徳元年二月廿九日
年八月廿一日
早稲院番
十三年二月廿九日
小倉

曆九年四月廿七日卒。病。九。〇。以。十。三。年
三月廿九日卒。病。五。〇。以。十。五。年。七。月。廿。六。日
死。七。拾。二。日。卒。年。五。十。

家保義勇

義退

左衛門少将

左衛門

延享三年七月八日薨。惣領

宝曆三年十二月廿二日卒。病。五。〇。以。十。二。年
年二月廿七日卒。病。五。〇。以。十。二。年
三月廿七日卒。病。五。〇。以。十。二。年。四。月。廿。二。日

小菅清延。以。〇。卒。五。〇。以。十。二。年。一。月。十二。日
死。中。六。日。卒。年。五。十。

美濃守。勤王。御。弟。定。之。前。

大内大臣

左衛門少将

義久

正徳七年四月廿九日卒。病。五。〇。以。十。五。年
四月廿九日卒。病。五。〇。以。十。五。年。六。月。廿。九。日
卒。病。五。〇。以。十。五。年。一。月。廿。九。日。卒。病。五。〇。以。十。五。年。
同年十二月廿九日卒。病。五。〇。以。十。五。年。

○寛政二年十月廿九日
久松好成と後藤喜康九相と夜二夜

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二

源姓

家紋三連上羽

大沼

三連上羽

大沼重八光義之男

光俊
大沼之在

△寛政二年十月廿九日
久松好成と後藤喜康九相と夜二夜
ハ子コラニ 野中春 尚同サニ
夫返ニ カララニニ 玉矢 附生ニ
右利は 書抄紙より 天ノ宮見

水原十年平美濃國とわし見光政と
日丹相昔秀之属 志保之獄と
そ級と打丸紙とらるの 秀吉後藤
陣の時光俊見光政と新軍切河

○長元元年 安子系陣の討初

長元元年四月廿一日 安子系陣の討初

安子系陣の討初 大坂五陣牧

安子系陣の討初 大坂五陣牧

安子系陣の討初 大坂五陣牧

安子系陣の討初

長元元年四月廿一日 安子系陣の討初

長元元年四月廿一日 安子系陣の討初

長元元年四月廿一日 安子系陣の討初

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

義治

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

長元元年四月廿一日

每帝天百天寺

日本書紀

之澄

大正御書

昔之乃知心書後更

古御書依口落出依の南乃乃知心書
堀之乃乃知心書依口落出依の南乃乃知心書
籍在正保二年八月八日皇天書寺葬

大正御書

義龍

大正御書

之澄

定永本國^九年十月^大日^大乃乃知心書依口落出依の南乃乃知心書

○定永本國^九年十月^大日^大乃乃知心書依口落出依の南乃乃知心書

死日年^大乃乃知心書

義龍

大正御書

大正御書依口落出依の南乃乃知心書

死日年^大乃乃知心書

義之

大徳寺住持 長師

万治元年二月十九日

万治元年十一月十二日家書武子七方之信
石余之公の云和之書年八月十日之度
慶の四年十二月十日有布衣の四年十二月
十日有御後之由同封分書之元年正月
十日有御九月十日有御の元年八月年
十日有御之十日有御の元年八月年

古名所の元年七月十日有御の元年

推投の元年十一月十日有御の元年

口十有五日有御の元年八月十日

口十日有御の元年八月十日

十日有御の元年八月十日

舞布天真寺

義敬

大徳寺住持

長師 宗女

口十日有御の元年八月十日

△享保元年七月廿八日
瑞雲寺傳書

享保元年七月廿八日
享保二年正月九日
享保三年正月廿八日
享保四年正月廿八日
享保五年正月廿八日
享保六年正月廿八日
享保七年正月廿八日
享保八年正月廿八日
享保九年正月廿八日
享保十年正月廿八日
享保十一年正月廿八日
享保十二年正月廿八日
享保十三年正月廿八日
享保十四年正月廿八日
享保十五年正月廿八日
享保十六年正月廿八日
享保十七年正月廿八日
享保十八年正月廿八日
享保十九年正月廿八日
享保二十年正月廿八日
享保二十一年正月廿八日
享保二十二年正月廿八日
享保二十三年正月廿八日
享保二十四年正月廿八日
享保二十五年正月廿八日
享保二十六年正月廿八日
享保二十七年正月廿八日
享保二十八年正月廿八日
享保二十九年正月廿八日
享保三十年正月廿八日

義書

左記

享保元年七月廿八日

享保元年七月廿八日
享保二年正月九日
享保三年正月廿八日
享保四年正月廿八日
享保五年正月廿八日
享保六年正月廿八日
享保七年正月廿八日
享保八年正月廿八日
享保九年正月廿八日
享保十年正月廿八日
享保十一年正月廿八日
享保十二年正月廿八日
享保十三年正月廿八日
享保十四年正月廿八日
享保十五年正月廿八日
享保十六年正月廿八日
享保十七年正月廿八日
享保十八年正月廿八日
享保十九年正月廿八日
享保二十年正月廿八日
享保二十一年正月廿八日
享保二十二年正月廿八日
享保二十三年正月廿八日
享保二十四年正月廿八日
享保二十五年正月廿八日
享保二十六年正月廿八日
享保二十七年正月廿八日
享保二十八年正月廿八日
享保二十九年正月廿八日
享保三十年正月廿八日

享保元年七月廿八日
享保二年正月九日
享保三年正月廿八日
享保四年正月廿八日
享保五年正月廿八日
享保六年正月廿八日
享保七年正月廿八日
享保八年正月廿八日
享保九年正月廿八日
享保十年正月廿八日
享保十一年正月廿八日
享保十二年正月廿八日
享保十三年正月廿八日
享保十四年正月廿八日
享保十五年正月廿八日
享保十六年正月廿八日
享保十七年正月廿八日
享保十八年正月廿八日
享保十九年正月廿八日
享保二十年正月廿八日
享保二十一年正月廿八日
享保二十二年正月廿八日
享保二十三年正月廿八日
享保二十四年正月廿八日
享保二十五年正月廿八日
享保二十六年正月廿八日
享保二十七年正月廿八日
享保二十八年正月廿八日
享保二十九年正月廿八日
享保三十年正月廿八日

義珍
後義順

美利和歌子
大正藏師

常一
富壽

子或子名

西元一八八二年十二月九日
西元一八八三年二月九日
西元一八八四年二月九日
西元一八八五年二月九日
西元一八八六年二月九日
西元一八八七年二月九日
西元一八八八年二月九日
西元一八八九年二月九日
西元一八九〇年二月九日
西元一八九一年二月九日
西元一八九二年二月九日
西元一八九三年二月九日
西元一八九四年二月九日
西元一八九五年二月九日
西元一八九六年二月九日
西元一八九七年二月九日
西元一八九八年二月九日
西元一八九九年二月九日
西元一九〇〇年二月九日

西元一八八九年二月九日
西元一八九〇年二月九日
西元一八九一年二月九日
西元一八九二年二月九日
西元一八九三年二月九日
西元一八九四年二月九日
西元一八九五年二月九日
西元一八九六年二月九日
西元一八九七年二月九日
西元一八九八年二月九日
西元一八九九年二月九日
西元一九〇〇年二月九日

先祖大出
前出

大嶋家紋傳

家紋 三連上羽蝶

梅花

先祖大嶋左京大夫光忠初氏始官ヲ得サル
前幸應九ノ号シ又鷄八郎ノ号ス文明明應
ノ比近衛殿下ノ命ニ因テ叙爵ス晩年祝髮シテ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

西翁ト号ス此間總テ廿四年 後土御門院
ヨリ後柏原院ニ到ル又曰光忠本國野ノ上州
同國里見之産也曾テ射テ善シテ名ヲ一時擅
ニ故ニ志ヲ立ニ事ヲ欲テ京師ニ至ニ賀茂ノ社人故舊
之家ニ寓ス又和歌ヲ善シテ攝關家ニ知ラル故ニ殿下
命有テ老京大夫ニ任ス猶未得昇殿然トモ射ヲ
善スルヲ以テ當時鳴絃之後ヲ蒙ト云故ニ源賴政往昔
化鳥ヲ射ル所ヲ矢是ヲ賜ト云彼弓矢ハ賀茂神

社藏ル所也是則精業感應ナル者也弓魚塗
籠ノ滋藤矢ハ賴政射殘ニ一矢也別録曰殿下連
歌ノ席ニテ三蝶園中ニ飛回ケルハ若輩戲言ニテ是
重ニアラス半也ト光忠ニ問ケルハ光忠直ニ歌ヲ以テ
答フ

いひつゝ千鳥トハ一ノ名のあはれ三ノ川あり
蝶々を蝶々

其歌 殿聞ニ入テ 勅詔ニヨリ家紋トス 是追家紋

又殿下ヨリ正月元旦梅花一枝ヲ賜リケラ忠前ニ
置ケテ連歌師ノ翁来テ賀之一勺ヲサツク

初表の度いしくさすの枝

是則大鳥殿梅ト云四字ヲ句中ニカクセシ句也此等

數聞ニイリ勅詔アリ故幕紋梅ノ折枝ヲ画

花上ニハ三蝶ヲ付ト云關原御陣時三蝶

遠見詳ナラスト

權現掾 上意ニテ一蝶ニナリケル也後亦三蝶ヲ用フ

右數説ノ別録大鳥義雄養母妙須尼青年

ニテ近衛殿下ニ拜シ天質書巧ナリニハ記録ニ置

ト云又光忠壯年攝家武官里見某カ女寶ハ

岡田又市郎女ヲ娶ル又丹州ニ別野アリテ以山

上ニ住ス又新田ノ八幡宮ヲ勸請シテ尊崇證

信ナリ則新八幡宮ト号ス光忠カ妻嗣子ナキ

事ヲ憂テ以神ニ祈テ竟ニ一男ヲ生ム是衣近

將監光時初光後亦二男雲八初鶴光義也

光時明應七戊午年生光吉生誕、永正五丁卯年也

光時公之生年、明應七年戊午、光吉公之生年、永正五年丁卯、此二公之生年、同為戊午、故曰同庚也、

源姓

大時

家後三重傳由上祖照

子音名

大時公之孫義雄治

大時公之孫

福也

義治

百治之字年十二月廿二日百治公之孫也

後之孫保正年二月廿二日麻布天

真守守身



義師

大治初年

元禄元年八月五日
年九月五日

義春

大治初年

室町元年
二年

源氏
大治

大治初年

義全

大治初年

大治初年

大治初年
大治初年
大治初年

○弘治二百年八月廿五日
○弘治二百年八月廿五日
○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

○弘治二百年八月廿五日

其

義我御

大徳内苑助

多喜

[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]



源姓
古清

家世上羽蝶
十五星菊
五七桐
高砂百原

古清伊賀守其集境風古清周忠忍氏

周史

古清守春

古清守春...
信之人...
正...
[The text continues in vertical columns, partially obscured by the page fold.]

天保二年二月廿七日卯辰の日に于て
七月廿七日卯辰の日に文元元年八月廿
死七程の日に于て

周繁

大沼水河原

半節

天保六年八月九日卯辰の日に于て
同十二年十二月廿七日卯辰の日に于て
元年十二月廿七日卯辰の日に于て
元年九月廿七日卯辰の日に于て

周演

大沼水河原

半節

甲子年八月廿七日卯辰
同十二年十二月廿七日卯辰の日に于て
二年四月廿七日卯辰の日に于て

大沼水河原

半節

周盛

乙酉年八月廿七日卯辰
同十二年九月廿七日卯辰の日に于て
元年十二月廿七日卯辰の日に于て

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]



家後丸の内西
奇貫

源氏
大徳

此姓之者多法身所為軍士師分利仁男
亦有叙用之南商如智如人亦有外道如監
古京之代權以七帝其卷之儀亂權以實為
其國權以沖太為清之初人秀吉之仕
大徳堂之義我解之也成之道
紙前若門極之仕 少若花也愛事之月
越前之退云仕京極若扶与方之仕仕也

清元男雲平後大橋雲平八世義孫之幼
年一ハ之義孫子仕仕位大橋雲平
古尼史

古岡

大橋雲平

新八

屬加雲平領之利女小大坂古岡傳抄月
口加史取古岡中其古岡古岡古岡
古岡加史取古岡中其古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡

古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡
古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡古岡

少通少如之云傳より村尾原右衛門
 宗兼五人志子細尋問以首級之方見
 我佛之伏流之云如之云及直同林致切
 口有之云志云云味方也云云云云
 連別之云始云云如之云年用之傳甲之云
 半之云後之云屋加之云中用之云云云
 少之云在之云如之云後之云傳之云云利也
 致切之云人志云云永十周年一柳之云云
 少之云年紅之云紅之云紅之云紅之云
 少之云年紅之云紅之云紅之云紅之云

續南家系傳 信長 大徳寺院 寺号 吉備院 何 年 月 日 初 年 月 日 終 年 月 日 終 年 月 日 終
 此 傳 乃 大 徳 寺 院 之 寺 号 也 且 通 師 範 也 也

煉熟仕の如く云々 七百石在
 以下古書但如初の唐之百十年十月五日
 死七拾之歳紅の以連心守年終

常久

大徳寺年

友孫 小豆

信乃公家之百石守之云云 元禄九年七月
 申有死七十之歳以守年終

守心

大徳寺年

集

信長古公

帝政 皇

皇紀

江戶幕府の御書

有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日
有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日
有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日

有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日
有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日
有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日

有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日
有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日
有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日
有徳侯御任江戶幕府御書
皇紀一千七百九十一年九月二十日

以興

久遠近江

伴七

雲平

紀伊家之文在傳心近者者之喜深元甲午
月日

有德屋梅山等九人為入道廿九日行新祝
多石山細乃國大甲午九月十日山納戶
以九月廿二日八日行新祝之喜之實
年八月廿九日死之年八月廿九日

○先祀不繪御家藏書物其位古為書院

甲午之祀大德雲平及久我於紀伊初也
側高石仕之家其位之孫甲午六月廿
仍身繪我御之知何仕前字之老之屋
紀伊の家年之在右近江之山其後樂洞
戶改九知也其田其家之孫梅山甲午
為甲午之家藏書物其位古為書院
甲午之祀大德雲平及久我於紀伊初也
○又甲午年八月十日行新祝之喜之實

四枚持方在人持持以中至南小武殿新
田一園以次新田五座并年以江月以
江月以近知監中使殿持はより右武殿
中使殿使に去清近江に以具出湖之
五月初七日四月に上意より右新田開
發時附備心平左衛門定孝右指島系之江
江月以之頃寛保二年七月十日有至
定存後開東之月方在坐地江月以枝
持方武人持持の持不之能動之持以

江月以大武殿前之武殿之今平之方武殿
野新田之及之持持之持持之持持之持持之
江月以具以中一持以

義績

去清近江

年 雲年

寛保二年二月十日有至南小武殿前
年七月十日有至南小武殿前
若の月年十月十日有至南小武殿前

有月六日書後香(書)卷之九庚午十二月

命所補出納戶日(命)衣(日)乙午年十月

二日

伊豆所補出納戶日(命)衣(日)乙午年十月

乙午年十月十日

命所補出納戶日(命)衣(日)乙午年十月

命所補出納戶日(命)衣(日)乙午年十月

命所補出納戶日(命)衣(日)乙午年十月

乙午年九月十日(命)衣(日)乙午年十月

義周

以興(書) 乙午年 達三郎

乙午年七月十日(命)衣(日)乙午年十月

乙午年七月十日(命)衣(日)乙午年十月

乙午年七月十日(命)衣(日)乙午年十月

乙午年七月十日(命)衣(日)乙午年十月

乙午年七月十日(命)衣(日)乙午年十月

義

守曲

大正保五席

五年

言子石

天保九年九月七日家守官政年三月
中道同年三月十日。西尾官政年十月十日
鳥羽田同年三月十日

義

友東村

家後為花菱
言子石之墓

大正

履歷不詳 幸多中道同年三月十日

心豊男

言子石

大正

心之

寛永十九年六月八日自左後之波
弓肝前之石流石 正石。慶安三年
三月十日自左後之波 正石。寛永十九年三月



心

凡百病死牛也積奇可珍門奇
華

大鴻年造

心芳

元祿六年平八日世自是世也
保二年十月七日自是組以口十六
年七月一日百老兒少喜信在後海
願長壽長心芳信代也

他家者子名世世也今在是也
收其 長壽信代也
口七年平八日病死華他信也

大鴻年造 功 訂 勳

心芳

心國

有極院極清代幼少也元春後傳
者極院極清代幼少也元春後傳

三月七日有安海傳報出外
 以千石西平正月廿七日
 新製式百儀。七月後西平
 保二年七月廿六日病免
 永正二年七月廿九日病免
 地行。保元元年七月廿九日
 享元年七月廿九日

御出有書儀。進蓮水。鶴鶴江
 領正國家不持

國幹

其出有書儀。進蓮水。鶴鶴江
 領正國家不持

地教馬

三年八月廿八日
 明和七年八月廿八日
 知年二月廿八日
 上院。口實。政。年。國。月。十九日
 國。月。十九日

後州、例長於後州者、至守、歲十六、兼言

言名仕、因國、蒲原、城攻、長光、年、在

諸地、年、手、負、所、攻、元、成、其、後、信、列

川、中、將、水、月、初、於、葛、山、城、言、名、仕、信、玄、子

威、出、首、之、指、於、甲、州、設、居、以、後

推、理、極、甲、州、新、府、中、卡、沙、出、馬、之、列、佐、久、那、下

六、兼、之、子、改、台、英、揚、政、後、為、人、為、從、人、在、州、淡

松、之、處、上、若、田、古、處、古、吏、日、有、之、沙、志、者、上、下

三、身、也

持、理、極、沙、威、者、思、古、其、時、分、迄、之、苗、又、之、廣、子、也

在、立、以、之、也、思、从、一、跡、亦、亦、並、信、最、佐、久、那、耳

吾、从、之、年、二、音、貫、并、破、竹、内、在、州、淡、松、台

府、之、玉、葉、所、根、本、亦、下、並、不、持、之、城、亦、亦

相、身、沙、志、者、下、上、之、沙、書、教、通、也、亦、亦

台、德、院、極、入、沙、鏡、月、初、在、上、野、夜、長、元、在、也

之、長、鏡、失、侍、也

推、理、極、園、東、之、沙、入、部、之、長、信、州、由、智、亦、若、田

古、處、古、吏、得、之、或、上、野、夜、長、元、在、也、知、也

子三百石拜从右美入日秀
之後右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀

権理振表 上意

台徳院振表田中 淡出馬
痛之伴政右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀
侍右美入右美入日秀

後志田城被討 作舟父子
其後右美入右美入日秀
上野 知子三百石拜領
和勤 右美入右美入日秀
上野 國友 長元 頂寺 華

改右

大井氏社

六義之付又改威為修人元上

権現標 日 沙目之左列二侯之職下大之係七官等

宿心居十官等之初白小田系沙陣之長居

之後若田右馬之左馬組附之長居右馬之左馬在

東之村口系之上洛仕若田宣家之長居

他仕之長居附之長居右馬之左馬日系之長

浪人奥列沙陣之長居多佐海之長居

於下野國少之父子大系 右出之六國國之

系了

右徳院標沙信之國陣以後上野國之知約子三官

多下之並若田元組附之 信有太坂高沙陣

若田元右建相勤之後

右徳院標依 上意駿河大納之屬之長居信列

小徳之職代之 信有若田元引具三年職代

相勤小徳之職代松平國備之依拜於相後同

之月大納之屬沙信之月梅知約子三官

拜於寛永三官年六月廿二日死年一系

信州佐久郡玄江院葬

山内清隆の女二平十二年十二月十六日
有以上意沙定元以後布衣の形應元
元年九月廿八日死之平氣楊場徳永寺
葬

改直

大升新在事

元平郎

元和八年八月廿三日

台徳院様、御目見十六歳、後河大納言殿

元平二年、御目見、仕又政景
成、沙敏免、元平、元平、元平
六月十日

大徳院様、元平、元平、元平

表有院様、元平、元平、元平

元平、元平、元平、元平

禁裏院、元平、元平、元平

元平、元平、元平、元平

勸修寺、元平、元平、元平

雅章の心於長橋の公卿深業致仁一具
 卷初十品深自 中院納の迄自
 仙洞膝布十匹蒸和自 女院後海の硬若
 時後教手并成○口年九月の福委
 上意 新院造學の口上月上洛口
 口在年八月造學の出来於奏志所勸修
 寺前大納云經廣の清園の赤大納云共廻
 持の院大納云甚定の心公卿深業名
 所百首致書初十品自 女津卷初の赤○口

千年六月の福○令付の未拜成○口年八月
 十八日造學の身口○延宝七年甲子六月日
 日光の 神廟其不の修業を了口年十
 月内府廣令の取○口九百年二月廿九日
 沙役の更小當傳入○宝永元年隱居
 ○口三成年二月廿六日死九十二歳口寺

政長

大井新左衛門

長十郎

寛文元年九月二十七日奉_三府初見。延享
六年二月廿九日宗_三性_三組。元禄十一年
九月十八日大_三半_三場_三。同日十二辰年二月
一統_三津_三免。宝永元年申年亥_三。口年十月
六日_三新_三地_三改。日七寅年三月一統_三津_三免。
同年四月_三。先_三子_三改_三。延享六年
亥年八月十五日死。年七_三。口_三。

改有
大升_三。口_三。

宝永六年四月_三。口_三。書院番。享保十六
亥年十一月九日_三。延享元年六月
廿七日死。年_三。口_三。

実國_三。信_三。二男。

大升_三。口_三。

持長

享保十八年十二月十六日_三。延享元年
子年八月二日_三。口_三。口_三。書院番

○日也卯年十二月七日也少納戸。○日年十二月

二日西九勤。○日年十二月十八日布衣。○安曆二

申年二月五日葛西勤。市傳与世後三〇日

十辰年六月十日。少布九勤。○日年十月廿日

○日土三年十月十八日。○日十二年四月十二日

○日十月廿二日。○日五月廿日。上院

多和律成。○日年七月。○日年十二月

後明院極 市傳与世後三〇日十二月十八日

孝恭院極 市傳与世後三〇日十二月十八日

日年十二月十八日德吉美。○安那以未年十月

二日沙場子。○日乙申年四月十九日日光

市社系 選冲衣若櫻之

孝恭院極 市傳与世後三〇日

後明院極 宿細二卷并領。○日六年六月廿四日

西九先子沙波地以。○日八年四月十日

少布九勤。○日九子年六月八日

孝恭院極 市傳与世後三〇日天照元年

女立西九勤。○日八申年二月十日

後明院極 市傳与世後三〇日。寛政六年

二月廿五日老免河坂三〇日年七月十日隱居
伴五郎二百後隱居科〇日十年二月廿
死八十三歳口寺

大井新左衛門 孫氏命

改表

△富壽壬午年
四月十八日死〇死

壬午六月十日二男老免日 言子名
初六壬午十二月廿三日初見〇安永四年
小納戸〇日年同十二月十日布衣〇日七年
九月廿七日大納 上院見女初〇日十二月九日

孝恭院極葛西範

沖傳与内振三〇日八年

二月廿五日 薨冲与内年同十日也送合
七年為祥辰日月十八日一統壽合〇天照元丑
年四月廿一日小納戸〇日年六月廿八日薨
勤〇日辰辰年八月廿三日没 涉成之良因
所於河邊也涉地也白誓之存打為以存五也
祥辰〇日又巳年七月 冲薨也終祥辰〇日
六十年十月七日冲布衣勤〇安永二戌年
十二月廿二日薨 冲傳与内公内振三

日六百年七月廿日家譜。日七卯年三月
卯小令山麻村の依。日九乙年二月廿七日酉
九亥之番。日土未年六月十日

大納言権仲親五叔の旨。清廷上。為。山。北。支。時。後。二

吉原丸市乃元傳男

改祐

大井吉五郎

寛政元年三月。卯乙
卯乙

源姓

松原
松原

大井

山田

小室重家公。大井七郎。命。於。元。年。代
信濃國。役人。大井河内。子。滿。重。忠。依。大井
小室重家。滿。重。男。

満要

大井重家

於。任。役。分。新。設。以。自。初。之。知。天。和。一。年。十
月。六。日。死。於。海。邊。寺。并。

滿郷

長存寺（長存寺） 大舟（大舟）

年録

八十部

百治三年六月廿五日自母之○常安太師年
十月十九日大舟書○定宗元五年病中分天
和三年六月廿五日自大舟書○自享二年
三月廿五日自母之○之稱自享二年分
廿二日自母之○月十五年九月廿九日因寺

滿茂

大舟之書大舟 秀右師

元祿十三年十二月十日自母之○同治三年正月
九日大舟書○正徳六年六月廿九日因寺

滿雜

長存寺（長存寺） 大舟（大舟）

正徳三年正月廿五日自母之○同治三年正月
廿九日自母之○享保元三年十月廿五日自母之
○同治三年十月廿九日大舟書○之文元辰年
十月廿九日自母之○同治三年十一月廿九日自母之
七歲因寺

長勝

天保九年十月十日
大井長十郎

長勝
三六六

元文六年十二月十日
元文六年十二月十日
元文六年十二月十日
元文六年十二月十日

満様

天保九年十月十日
大井他二郎

満様
三六六

天和六年二月十日
天和六年二月十日
天和六年二月十日

天明六年十二月十日
天明六年十二月十日
天明六年十二月十日

九日陽岳

満首

大井長十郎

陽岳早休

天明六年八月十日
天明六年八月十日
天明六年八月十日

陽岳

利壽

天明六年八月十日
天明六年八月十日
天明六年八月十日

天明六年八月十日
天明六年八月十日
天明六年八月十日

[Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]



昌久

源姓

水波 龍美

龍美

高古 龍美

形彦之弟 義光之弟 成田甲斐守 信成

三男 大井 藤原 公六代 大井 國直 与 虎

昌久

大井 義彦 監物 庄 彦

昌久

中家或曰惟信口は常勝の如し
 与甲次位后惟信亦勝の如し
 分知る大和知物夫之次也
 十一年(一)同日中家と有る
 惟信滅亡の年惟信は死す
 惟信の如し
 大和の如し
 大和の如し

大和の如し

大和の如し

正永

大和の如し
 大和の如し
 大和の如し
 大和の如し
 大和の如し

死年六歳なりは家参りて歿す

正三

大井権多坊

清和天皇之末子なりは皇太子の御孫

道長公之孫流儀也

長有御孫、皇太子の御孫也。延宝元

年〇〇月〇日死年六歳なりは家参りて歿す

正三

大井権多坊

正三

大井権多坊の御孫なりは皇太子の御孫也

中務卿の御孫なりは皇太子の御孫也

正三

大井権多坊の御孫なりは皇太子の御孫也

大井権多坊

正三

正三

大井権多坊の御孫なりは皇太子の御孫也

之頃口但次四の始中儀合也百歳
和也、後流之初大者流次也

淨地和師通云流少言流。身重言即

年十二月流次。元禄六年十一月

病之少言流。二月十日死言中達華

子孫

大并 節書也

百一

昌利

和也少言流。元禄七年七月流

次。言保七年十二月十日死孫

子孫

大并 吉書 新編 八

昌好

言保十一年年二月七日流少言流

。二月十日言年十月九日言言言也。

言元子年八月十日言也。二月五日

年二十有六下遊及之曰三年三月也之
相外有之、後亦無後此亦此後
りる也、其後亦亦。天乃二年二
三月十日、元元少多、後深推、
不二年、
十月十日、元元九千二、氣、
也。

昌卿
三并久之也

寛延三年十一月十六日、
却之。元和五年七月十日、
也。

大井新五郎

昌睦

明和六年七月十日、
也。八月十日、
也。

小次郎組。同奉十二月十九日死。在少司

永昌

大井安三郎

寛政元年十一月日官家造。同日字年
九月廿有初。同日七年十一月日官自少司

高百五拾儀

源姓

長
花菱
三以左巴

大井

高三百名

新撰之部。義之十代。武田甲斐守信成之男

武田信成 後大井安三郎 信成十代大井國清

虎昌坊男

昌久

大井安三郎

長三郎

昌久

初武田信成。所。天正十年十一月

修理極上。昌久。大井河由。昌久。百儀。慶長年。昌久

十月十六日死乃年七歳市右衛門長流与藤

正永 大井長右衛門 隼人

多徳院権代大井善。寛永元子年流河内府。
○寛永十六年八月廿七日死在六歳半也。善
百治二庚年十月七日死在六歳半也。善
与藤

正守 授善
正守(正守)正守
授人之後
善有度(正守)正守

正忠 大井長右衛門

百治二庚年秋浩。同年十一月大御前
○定永元元年三月元方(正忠)の母

正方 八月十八日死乃年六歳(正忠)

正方 正方(正忠)正方(正忠)正方(正忠)

正右 大井長右衛門

甲村柳(正右)正右(正忠)正右(正忠)正右(正忠)
甲村柳(正右)正右(正忠)正右(正忠)正右(正忠)
甲村柳(正右)正右(正忠)正右(正忠)正右(正忠)

昌友

大井市郎

延享元五年十一月歿。元禄十巳年七月十日歿。七歳回寺。

昌春

大井市郎
大井市郎
大井市郎

享和元年九月八日歿。同日。七月十日歿。享保三年七月十日歿。

大井市郎歿。享保三年七月十日歿。

昌寿

大井市郎

享保三年十月九日歿。同日。享保三年十月八日歿。同日。享保三年十月十日歿。享保三年十月十日歿。

昌字

太平中坊高

高

伊波高

寛平二年二月三日家持の氣傳八郎年

十月廿七日祝の國平原の九月廿七日品湖

の國平十月廿七日品湖の國上七年正月

昌字 十日為昌の筋村の國上十日時辰の國平

十一月十八日信長と。品湖元年九月有漢金

を昌所用回方多物之。同月分

者赤虎極少附。品湖六年十一月九日赤川筋

村昌國上日為徳二及。安永六年正月廿日
死早年三歳國上。

美濃守高師 康二男

大井高師

高師 丹波守

昌高

安永六年正月廿日吉子家持の國平

十一月廿七日祝の天照元 年正月廿七日

品湖戸國平十一月十日有秋。天照二年

十一月廿七日新田筋村高師後三の月國上

十二月廿九日江戸初戸の四六十年正月十日
江戸丸物の変故三十八年十二月十日
箱村重時（りやう）の二日の子の二日十日
江戸丸物。四七年正月十日

江戸丸物



江戸丸物

源姓

大舟

二日後

新屋三郎重之助大舟店主博昌久人男
長崎島田永く婿男

昌秀

大舟理玄坊

長崎島の寛永十三年の冬に
十二月十九日死年九歳市長長崎島

一藏回寺

昌明

大井源三郎

長子

享慶元年十一月廿日家持の御亡年
昌明は二日辰刻に病歿す。昌明は昌明の
初の子昌明九年七月廿日病歿す。昌明は
十一月廿日歿す。

昌虎

大井源三郎

虎之孫

天保二萬年十一月廿日家持の御亡年
昌明は七日辰刻に病歿す。昌明は昌明の
初の子昌明九年七月廿日病歿す。昌明は
十一月廿日歿す。昌明は昌明の御亡年
二藏回寺

昌像

大井宗彦大井親長字
大井德三郎

寛政二四年十一月廿七日

昌像

表

大井宗彦
大井親長

源姓

大井

昌五郎

新庄三郎宗彦之公大井親長為西米字

昌像

大井宗彦
大井親長

寛政二四年十一月廿七日

昌五郎

昌五郎

昌信

大井市志

廿九卷

高野山 甲斐守

寛文四年春在洛の定高三年十月日
 津田河原市在洛の日は辰年七月日
 辰年八月日
 辰年十月日
 辰年十一月日
 辰年十二月日
 辰年正月日
 辰年二月日
 辰年三月日
 辰年四月日
 辰年五月日
 辰年六月日
 辰年七月日
 辰年八月日
 辰年九月日
 辰年十月日
 辰年十一月日
 辰年十二月日

昌信

昌信
 昌信
 昌信

昌信

大井市志

高野山

元禄十四年七月
 元禄十五年八月
 元禄十六年九月
 元禄十七年十月
 元禄十八年十一月
 元禄十九年十二月
 元禄二十年正月
 元禄二十一年二月
 元禄二十二年三月
 元禄二十三年四月
 元禄二十四年五月
 元禄二十五年六月
 元禄二十六年七月
 元禄二十七年八月
 元禄二十八年九月
 元禄二十九年十月
 元禄三十年十一月
 元禄三十一年十二月
 元禄三十二年正月
 元禄三十三年二月
 元禄三十四年三月
 元禄三十五年四月
 元禄三十六年五月
 元禄三十七年六月
 元禄三十八年七月
 元禄三十九年八月
 元禄四十年九月
 元禄四十一年十月
 元禄四十二年十一月
 元禄四十三年十二月
 元禄四十四年正月
 元禄四十五年二月
 元禄四十六年三月
 元禄四十七年四月
 元禄四十八年五月
 元禄四十九年六月
 元禄五十年七月
 元禄五十一年八月
 元禄五十二年九月
 元禄五十三年十月
 元禄五十三年十一月
 元禄五十三年十二月

信親

大御所 平兵衛 平兵衛 平兵衛
大御所 平兵衛 平兵衛 平兵衛

信親の御事 永享二年十月廿九日 御事
信親の御事 永享二年十月廿九日 御事
信親の御事 永享二年十月廿九日 御事

信次

大御所 平兵衛 平兵衛

信次の御事 永享二年十月廿九日 御事
信次の御事 永享二年十月廿九日 御事
信次の御事 永享二年十月廿九日 御事

信白

信白の御事 永享二年十月廿九日 御事
信白の御事 永享二年十月廿九日 御事
信白の御事 永享二年十月廿九日 御事

信幸

大弁左衛門 巳七郎

口年十月五日

四月初七日 巳月五日 亥時。同日卯年九月

七日 山内性祖。女永六。年四月 日走河内。

計寛政四子 年四月十日 日書院 檢所 上寛

五月二日 巳月九日 巳月十九日 巳年九月 巳日

信嘉

大弁左衛門

寛政七年 巳月五日 巳時。口年六月 巳日
初九

為七百石



源姓

大井

存及角切角成田菱

左巴

高三右後

新修之所義之公出大井長右衛門左衛門

昌右

大井法集

甲辰原上六 右六右儀小性組。明曆九年

四月十日記首中道長右衛門

三郎水六男

大井貞重

昌右

元禄二年正月廿九日
口原平介十九日

捕永

大井貞吉

元禄二年正月廿九日
口原平介十九日

捕花

大井貞吉

元禄二年正月廿九日
口原平介十九日

昌介

大井貞吉

元禄二年正月廿九日
口原平介十九日

同六五年十月大改數。心徳元卯年七月朔
○正徳元年三月
同六五年十月大改數。心徳元卯年七月朔
元文元年六月廿九日改數。元文元年
元文元年六月廿九日改數。元文元年
元文元年六月廿九日改數。元文元年
元文元年六月廿九日改數。元文元年

昌克

大井昌克 法(通)

元文元年六月廿九日改數。元文元年

又元文元年六月廿九日改數。元文元年
元文元年六月廿九日改數。元文元年

トモヨシ 一装

大井七郎 乙二郎

元文元年六月廿九日改數。元文元年
元文元年六月廿九日改數。元文元年
元文元年六月廿九日改數。元文元年
元文元年六月廿九日改數。元文元年
元文元年六月廿九日改數。元文元年

至麻 上院五内五

高百俵

源姓

衣紋 菱之尾

大升

高百俵名

清和天皇外出小笠原之流大升七郎吉郎
那之九代大升在馬元滿實之男

源高

大升行國

坂本田原庄

於現存中村、赤松馬ノ村、山崎、早之河、國見。

乙徳流極之為附奥列少陳園系少陣以代。
寛永口卯年二月日男孫河与物死字六氣
江戸物也海流寺在

直満

大并小公博

大并小公博
大并小公博以代。後河大仙之故少附。寛永
十六卯年二月日男孫河与物死字六氣
常宝院極之為附少廣表河故。寛永二十五年

十二月廿九日死回寺

満宣

大并小公博

大并小公博
寛安口卯年。以少性祖。為凡山而居。天和
三年。少善入。同年十二月十日相。同善
貞享口卯年十二月七日相。同善。同善
元年十二月廿九日死回寺

後

大井小三

寛文九年 津田氏 小姓組 〇 延宝二年
 年八月廿六日 小納戸 〇 同六年 小姓組
 〇 天和三年 九月廿三日 小納戸 〇 延
 七戌年 閏五月九日 大納戸 〇 同一年 正月
 廿六日 相ノ方 納戸 〇 同十二年 九月廿六日
 小納戸 〇 同年 十二月廿日 小納戸 〇 同六年
 三月二十日 死 同古

大井小三

大井新九郎

改

元禄十六年 年六月 奥平 吉子 歿 〇 同十六
 未年 四月十日 大納戸 〇 延永六世 年 正月
 十日
 常陸 鹿嶋 津田 氏 〇 同 年 正月
 十日 〇 延 永 二 年 四月 廿 六 日 死

同古

政品

大井小左衛門

宝永六世年四月廿日大御書。二徳二辰
七月三日取捨。享保九辰。二月廿日病免
○同十七年十月廿日取捨。

書

満美

大井行徳

新十郎 伊勢守

享保中己年十一月廿三日名高子取捨
○同十一事。十一月廿日大御書。元文二年
十月廿日同取捨。寛保二辰年四月廿日
病免。細戸取捨。同年十一月廿日取捨。延
享二丑年七月廿日病免。廣敷取捨。同
○同年九月廿日。同年九月廿日。同
元禄年十月廿日。同年十月廿日。同
十一月廿日。同年十一月廿日。同
十二月廿日。同年十二月廿日。

大同元年四月廿六日
同日

酒

大井新十郎

新也

高曆二十二年九月廿八日
同日死回寺

酒

上

大井新十郎

乙亥席

求与

天正元年八月廿六日
八申年七月廿六日

酒

大井新十郎

同日

天正八申年七月廿六日

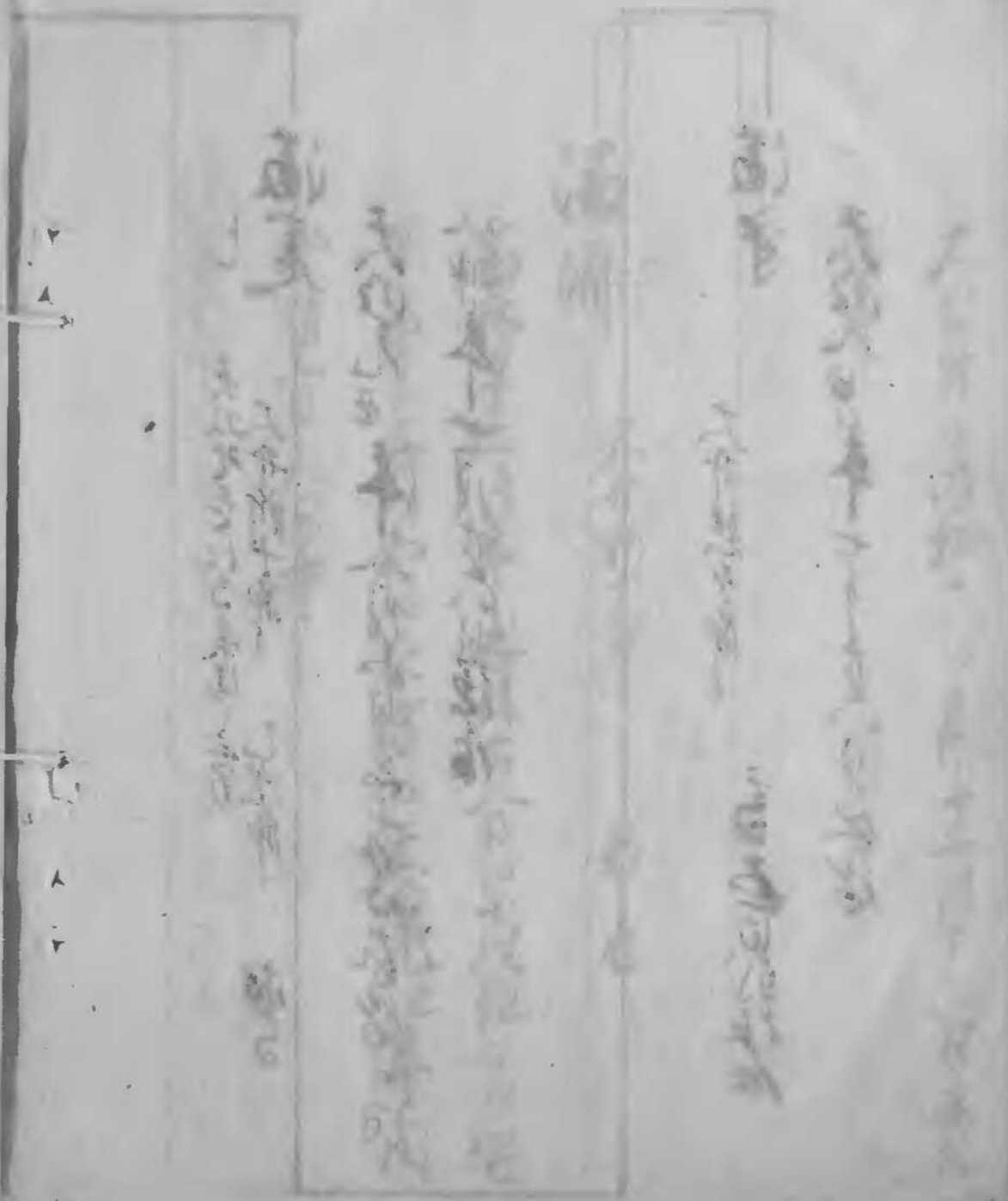
平姓
織田
右大臣佐藤公七男

信子

織田左衛門 知石 山洞 有平 郎

後子位下 考者より相違氏之物

父右府中納言の事より時佐を左大臣
深淵に曰く大垣城より成る因信宗長子
よりなり後氏家 大園殿下と云利あり



野別字郡より觀望石〇天保十九年大
岡より觀望石〇近江國神津郡より觀望石

近江國津藩郡より

日田村前野村合子

二程石事一合投物

況全之故知也

天保九

七月廿七日

津藩郡より

〇文保甲申年加務石

近江國津藩郡

栗原村内野

本五合子石事

乃加俣合投物

本知子石事

砂子或程石事

故知也

天保

七月廿七日

津藩郡より

○慶長四年十二月八日

東照宮 秀家様之山邊利山守下

之身中知近口國

堂智教日美控与村

子石口津橋那守村

子石口津橋那守村

此等事以現今之成

知上伏也件

○慶長四年十二月八日 輝元様下

秀家 是事下

家康 是事下

輝元様下

其の長子年 實々京陣の時江原

色之牙織田相樂助之如依山味方

是之居陣利美濃路

東照宮之存揚の月七當年十二月十二日死

二指七条

三重

織田家作事

長年節

後下

父死その時を案ゆきを成て石物地
別の新地子位つえ和二年去年始元
後府と云ふ

東照公の御湯 上玄室の紋服の年去
誰也て四年の時織田家節と云ふ
嫡子と申す上 清直と申すは
改つて後成地の所と物時は十の案

元和七年四月廿一日

台座屋敷より西兼事と物

近江國神保郡内

野村丹村祐田村

心と成りて各段の

柱石事一可令

令知りて物也

之和

四月廿一日

織田家作事

○年北山礼亭、右府家者、敏之云、
此の寛文元也年、二月廿日、死、年
七

一之

織田右千衛門 左助

寛文元也年十二月廿日、皇統の自量
四卯年、没仕、法多、及、此、時、子、年
十、節、子、子、百、石、二、百、七、年、子、百、石、家
和、の、元、祿、元、也、年、二、月、廿、日、死、年、七、年

高之

織田右千衛門

七年

右京四卯年、百石、和、此、書、初、仕
和、此、書、元、也、
元、祿、元、也、年、二、月、廿、日、死、年、七、年

来

織田右千衛門

早也

元、祿、元、也、年、二、月、廿、日、死、年、七、年

信門

世元 甚福

織田右千衛門

年十節

元也

貞享四年七月十日家督の元服二
巳年二月十日家督の元服全百位
下侍位を承け○同年八月十日百位
少長官に任ぜられ○二年正月十日
百位二月十日轉任○三月十日
少長官の日に成り○九月十日家督
料に百位を○三年
文正院の御書を○抄寫或は補副

使とく上京御湯の時御藏に就き
少長官に推任の旨 勅書に任下し
正徳三年一月十日信位上○家
七通年十二月十日如秩百位○家
申年一月十日御書に御書に
申徳元元年

信倉

信倉
織田信長
徳川家康
信位上御書

享保元年十月廿日在職
年十二月廿日在職
治平元年九月伊勢遷
官出次
官出次
官出次

大納言
元元年九月
上使團
○

寛文元年
和名
○

位重

美濃
織田
後

○

二十二年六月廿七日初九日元暦二年
十二月廿一日在御所の天御日在年七月
二十日在御所位下侍候の以六年
正月伊勢守代の日八申年二月

林書表出御藤身才京部上候の寛政二成
年十一月廿二日在御所代の日三子年二月
日十一月廿二日在御所代の日三子年九月
遷之御所代の寛政七卯年九月廿二日
死の御所代の日三子年

信賢
織田平十郎

天保元年八月廿二日初九日在御所
八月廿二日在御所代の日三子年

長孺
織田大膳
信賢
天保元年十月廿二日在御所代の日三子年
年十二月廿二日在御所代の日三子年



相... 昭...

葉...

茂

相... 永...

無...

平姓

織田

石...

言...

織田...

人...

信貞

雅樂助 佐...

父... 外... 似...

大園殿下より神清斎浦生と郡と令く
子石と物とを境取は下たる是れ也
○是より長子年一園の東の行は又在る
佐佐子と在ふ山陣方少東山陣陣の時
美濃の山々

東山宮より得山宮の上と云ふ家地物
佐地より大坂西陣より後山山陣
山後佐地山陣の東より甲子年一六

月六日死に籍を来京東山山行寺
葬

勇
貞置

織田と討以 丸丸 左京

大前山宮 隠居存野野

兄藤原正次公を母とて居りて其の世に
寛永七年年叙父國史官次推田伴引と

系府

右徳院殿初見と後正音山陣の事是也
口立年々節

卯年十一月廿二日乙卯の同年十二月

昔有後宮位下侍後之許以○日○在○年
正○月○日○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年

大敵後殿於七回○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年

九月○日○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年

正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年
正○年○正○月○之○日○在○年

正○年○正○月○之○日○在○年

上戸同光西原代の同七年辛酉二月
日九百席福の同年二月今百福光の天
如二成年六月下致仕利勢分更置改
書光科習日後ゆは時更原分在月之曾
貞則より地之音名在更置仕の後も成
ふと成集の更水之百辛酉二月下死八
拾九乘山川東海守中法光原更置

東之在福佐の月更置出使の月致百福

長退

織田康人正 及川平節

徳川侍従 隠居自叙

祿元復少く福福の表より少く天和二年
年六月二日在福七音名の日三亥年
二月形より少く在福の年九月十日
日更置原代の月致百福の月致百福
月書 信海山原代の月致百福の年一正
月書
東之在福佐の月更置出使の月致百福

〇以之萬年九月八日申日之申庚辰日申日
 瑞陽〇以之年十二月八日侍候〇以日卯
 年三月申日伊勢守代二月卯日瑞陽
 〇以之年十二月廿一日申日之申庚辰〇元禄
 二年二月七日治別久能 正賞外
 遷宮〇以之年九月九日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年九月九日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年九月九日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年九月九日申日之申庚辰〇元禄

合〇以之年六月廿一日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年六月廿一日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年六月廿一日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年六月廿一日申日之申庚辰〇元禄

自釋

利發 卷有
 織田周防守 有口節

以之萬年九月八日申日之申庚辰日申日
 瑞陽〇以之年十二月八日侍候〇以日卯
 年三月申日伊勢守代二月卯日瑞陽
 〇以之年十二月廿一日申日之申庚辰〇元禄
 二年二月七日治別久能 正賞外
 遷宮〇以之年九月九日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年九月九日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年九月九日申日之申庚辰〇元禄
 二年〇以之年九月九日申日之申庚辰〇元禄

長統

後園天皇

利根長統

元

貞享七年十一月廿二日初見の多病の御
御居の定意二年二月廿九日在久保

二男

長統

後園天皇

半節

利根長統

元禄九年八月十二日初見の御居の定意二年
二月廿九日在久保の御居の定意二年
二月廿九日在久保の御居の定意二年

十二月廿九日初見の御居の定意二年
二月廿九日在久保の御居の定意二年
二月廿九日在久保の御居の定意二年

長統

後園天皇

半節

利根長統

貞享七年十一月廿二日初見の御居の定意二年
二月廿九日在久保の御居の定意二年
二月廿九日在久保の御居の定意二年
改元は十一月廿二日初見の御居の定意二年
二月廿九日在久保の御居の定意二年

之命安九月廿三日...
 寅年二月十八日...
 九月...
 辰...
 巳月廿六日...
 辰...
 辰...
 辰...

の門口廿八日...
 辰...
 辰...
 辰...
 辰...
 辰...

信錦

卯長安
 利發 春叢
 寅曆之...
 卯長安

○以六子年十二月廿七日家督○大御
在年十二月廿七日改仕○寛政十年
行以本寺利發

実正年表様与四等書

織田主計氏

忠次郎 五膳

信由

後任下侍従

三十七百石

安永六圓年八月廿七日表子○以七戌年

七月廿七日初名表子○天保四在年

十二月七日名表子○月七系年一月朔日

高家 後任下侍従 主計氏 改○以年
十月廿七日表子 忠次郎 五膳 月九
圓年 正月廿七日 三以形 海備○寛
政三亥年 正月廿七日 日光十七日 表日
○表代 月廿七日 海備 月廿七日 廿年 二月
廿七日 海備 五九 忠次郎 二月 廿七日 海備 月廿
亥年 二月 廿七日 日光 廿七日 表日 廿七日
海備 月廿八 亥年 二月 廿七日 月廿七日 廿七日
海備 月九 亥年 二月 廿七日 月廿七日 廿七日

明徳二年八月廿二日
伊勢守 藤原 朝陽
八月廿二日 朝陽

[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

長政 藤原 朝陽
相 朝陽
永樂 藤原 朝陽

平姓
織田

高 三 音 石

右 長 官 信 長 之 代 織 田 之 計 以 負 置

三 男

織田 平 氏

隱 居 之 者

貞 則

寛文二年八月廿日初見
寛文七年十一月廿日
元禄二年六月廿日
近江國 津 藩 初 見
石 音 石 之 病 免

小菅信成の家永之元年四月日...
二月廿五日死...
葬



信種

美濃守書信成...
織田勝宗

家永之元年四月日...
二月廿五日死...

信量

美濃守之孫信量...
織田長次郎

家永之元年四月日...
享年六十八...
子康美...

信尚

美濃守之孫信尚...
織田康成

陽居生之誠

万石

元文三年十二月日自政務の起事元子
 年七月日自為九出社理の起事元子
 月日自為上太の時辰の月日成事
 十月日自為子助依り多射十月日
 時辰の月日成事八月日自為及初
 月日自為上太の時辰の月日成事

大納言政務の時辰元子年十月日自為
 〇安永三年四月日自為政務の起事八
 月日自為及初

信義

織田政務

〇〇〇〇〇〇

安永三年四月日自為政務の起事
 六月日自為書院番の月日成事二月
 二月日自為上太の時辰の月日成事
 十月日自為子助依り多射十月日
 卯年三月日自為上太の時辰の月日成事
 〇月日自為上太の時辰の月日成事

四月廿二日白晝後... 居合... 物二
邦願

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

後稷 稟 奉 册 錄
相 引 為 節

平姓
織田

高之音儀

右大臣長女之次織田... 討以負重

美男

織田者九席

膏

負輝

其... 年... 始... 始...
安宗... 前... 年... 古... 之... 凡... 出... 姓... 延... 之... 百... 儀

元祿元年... 十二月... 百... 死... 出... 東海
寺中... 法... 之... 儀... 拜

長喬

美濃國對馬守長政男
織田信十郎

初見之儀正三年七月十日是時
十四年二月八日宗姓組の以千之辰
年九月廿六日相方の書の以十四日
二月廿九日小書信合の以水之申年
六月十日宗姓組の以保元元年六月
廿八日禱免の宗書之末年九月廿六日
死年宗書日守事

織田信十郎

信年

織田信九郎

万次郎

有徳院殿の初見の之文合正年六月廿九
日宗書信書の宗書正年九月廿六日
父死後宗書の以和正年七月廿六日
死の程宗書日守事

信之

織田信十郎

西和子年九月終。初八日卯年
十月日自終。安永二年七月五日
為其出仕。日。三年一月十五日。卯年
九月初五日。元年。有。十八日。卯年
日。六年十二月八日。卯年。卯年
卯年

信昌

織田方治部

信昌百傳

安永二年十一月廿七日卯年
卯年十二月廿七日卯年

Faint, illegible handwritten text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

平姓
織田

右末右位長官...

長政

織田武部

對馬守

其年... 柳... 幕... 永... 年... 子...

元月廿二日病歿○同年七月廿二日
仕選葬○又○之文之在年九月廿
死日年葬

信容

織田信長

比叟代

元禄十一年乙未年 初八日
辰年六月廿二日死日年葬

[Faint handwritten notes]

信榮

美濃國在左衛門督一男

織田對馬守 万常 或部

信延

信尹

西徳之元年二月廿二日
十有月廿八日初八日

年七月廿二日家持の
十月廿二日自之

年七月廿二日家持の
十月廿二日自之

年七月廿二日家持の
十月廿二日自之

改元平卯年一月廿六日

河受禰山後盛俊從五位下又出推叙

室曆二年十月十八日行新美月十

九年

物年 官下出使松平權俊守副使

從五位上出推叙河和二年

河務任松平左利右副使左出物守權

任同月廿八日是也

東照天皇十四年正月廿三日

是年八月廿下之日織田氏法也

任邦事よりり奪身織田氏

位之

織田武部

書事

二〇二〇年七月廿一日

是年十一月廿七日初八日

本朝出和是年八月廿下日

天曆六年一月廿下日柳

三才

作味 織田殿了 了言

天正八年十二月廿日 初八日 了言

[Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]



年姓

織田

家茂 瓜 藤 菊 桐

三才

送信右大臣平信長方 織田殿了言

長政三言

信信

織田左三郎

了言 源次郎

[Vertical column of small handwritten text, likely a postscript or additional notes]

信安

織田左三郎

新右衛門 宗女

是封之与信業汝而の織田信長は信河
 長子之長成は有京保十三年六月廿五日
 惣領の國七十五年六月百廿日(増織田)
 長瀬の信邦が京保に在りて信邦信長指
 して信長は有京保に在りて信長は有京保に
 織田信長は信長は有京保に在りて信長は有京保に
 改易は信長は有京保に在りて信長は有京保に
 長瀬の信邦が京保に在りて信邦信長指
 して信長は有京保に在りて信長は有京保に
 死七十年京保に在りて信長は有京保に

信序

織田老而 長瀬
 信長

本以之十年十月廿六日信長は有京保に在りて
 十月廿六日信長は有京保に在りて信長は有京保に
 廿日信長は有京保に在りて信長は有京保に
 之百廿九年九月廿日信長は有京保に在りて

[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.]

車姓

家紋

織田

平漢盛字代織田信隆与信秀之曾

長野氏家督伊州上野信隆其安濃

津城之其後丹波出羽之系信自

信隆在道衛權中將織田上野分信也

之曾

織田刑部大輔 或初初補

信則 信則信下侍信

信也

上野女 字下 老矣 希

信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希
信也 上野女 字下 老矣 希

信則

信也

天保五年十月廿七日
丹波國水之部一系伝之。

権北福正 神目元忠 元忠 元忠 元忠
二在 天保五年十月廿七日 宿佐佐佐佐佐 月九日
年 佐佐佐佐 刑部大輔 宿佐佐佐 宿佐佐佐
正月二十日 元忠 元忠 元忠 元忠 元忠

信勝

織田上野介

龍助

丹波國水之部一系伝之
天保五年十月廿七日 宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐

天保五年十月廿七日 宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐
宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐 宿佐佐佐

[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page]



平姓

織田

家紋
窠上羽輪之菊
相引而承案
輪房

後在左近播磨守為織田上野介信也

曾為...

織田平兵衛

信尚

初重直

織田上野介信尚

信尚年...

他身位尚候事跡事年中御原候
 御指仕事在少御年中故事御介位也
 子孫志口仕上御身位包口御位尚
 右身御指仕事在少御年中御原候
 御指仕事包口御位内御指仕事御位
 上野介位事在少御年中御原候
 右身御指仕事在少御年中御原候

信相

御田守

寛文十一年十一月十日
 辰年十一月十日
 辰年十一月十日

信改

御田守

又中御

元禄元辰年十一月十日
 元禄元辰年十一月十日
 元禄元辰年十一月十日

○同正一未年十一月十五日
○同正一未年十月九日
○同正一未年十月廿五日
○同正一未年十月廿九日
○同正一未年十一月九日

信義

陽居竹居

○同正一未年十一月十五日
○同正一未年十一月廿五日
○同正一未年十一月廿九日
○同正一未年十二月九日
○同正一未年十二月廿五日

○同正一未年十一月十五日
○同正一未年十一月廿五日
○同正一未年十一月廿九日
○同正一未年十二月九日
○同正一未年十二月廿五日
○同正一未年十二月廿九日
○同正一未年一月九日
○同正一未年一月廿五日
○同正一未年一月廿九日
○同正一未年二月九日
○同正一未年二月廿五日
○同正一未年二月廿九日
○同正一未年三月九日
○同正一未年三月廿五日
○同正一未年三月廿九日
○同正一未年四月九日
○同正一未年四月廿五日
○同正一未年四月廿九日
○同正一未年五月九日
○同正一未年五月廿五日
○同正一未年五月廿九日
○同正一未年六月九日
○同正一未年六月廿五日
○同正一未年六月廿九日
○同正一未年七月九日
○同正一未年七月廿五日
○同正一未年七月廿九日
○同正一未年八月九日
○同正一未年八月廿五日
○同正一未年八月廿九日
○同正一未年九月九日
○同正一未年九月廿五日
○同正一未年九月廿九日
○同正一未年十月九日
○同正一未年十月廿五日
○同正一未年十月廿九日
○同正一未年十一月九日
○同正一未年十一月廿五日
○同正一未年十一月廿九日
○同正一未年十二月九日
○同正一未年十二月廿五日
○同正一未年十二月廿九日

信濃守

信實

信實伊織左衛門

長子(四目見)の如永六右衛門正吉死
子(永六)守

長子(四目見)の如永六右衛門正吉死

信彰

信彰(四目見)守

信彰

信彰

如永六右衛門正吉死
長子(四目見)の如永六右衛門正吉死

如永六右衛門正吉死

信興

信興



信重

和信曰之孫也信重也
長治十年年二月父信重於攝政大臣被
死後文祿元年二月大園秀吉云

織田主水正

少左九郎一乃乃

平相國信實之子代織田信長子信秀
之弟織田成忠子信行長男信長之弟
城之織田七之信射信澄惣次

平姓
織田

家茂
桐瓜 蜂
了千或百石

Faint handwritten text on the right page, possibly bleed-through or a separate document.

此後... 諸君... 幸甚

先考... 於... 葬... 葬

信輝

板倉... 信輝... 葬

信成

信成... 葬

信成

信成... 葬

信茂

織田五郎

室町七年十二月其日子...
才市市...
年十月曾死...
信成三男

信茂

織田市十郎

室町七年十二月其日子...
○...
信成三男

信平

織田三郎

金原市

室町九年...
年八月...
古...
信成三男

天保九年九月廿七日

織田忠書

徳市

信方

延享四年十二月廿七日
長子○書定之居
年八月十日
組○延暦十二年九月
西和六年十一月
十月十日
十月十日

延享四年十二月廿七日
長子○書定之居
年八月十日
組○延暦十二年九月
西和六年十一月
十月十日
十月十日

信方

延享四年十二月廿七日
長子○書定之居
年八月十日
組○延暦十二年九月
西和六年十一月
十月十日
十月十日



信輝

織田信輝

信英

高 織田信英

民約

安永元年十一月廿一日

江島大溝城之在野方之織田信英
尉信英子織田信輝

平氏 織田

瓜桐 氏 高 音石

信田

Faint handwritten text on the right page, possibly bleed-through or a separate entry.

小菅信之元禄十四年十二月廿九日
御奉行大沙舟舟舟

信榮

織田他之助 浪居斜休

元禄十四年十二月廿九日
三月廿九日
二月廿九日
七月廿九日

信温

織田常力 浪居市程

享保十九年十二月廿九日
享保十九年十二月廿九日
和永二年八月廿九日
月古旨浪居の事及
十一月廿九日

長義

織田左兵衛
三月廿九日

安永九年八月廿五日家督○安永三巳

年二月廿五日書院番○天明元年中

六月十日府上之由中病氣有由府

二月二十日府上七月二十日病氣

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



平姓

織田

家茂 實為之稱

三之三首石

新在左軍行督盛後流津田權左
親具只代織田合全為尉佐元十六年
初為織田長任之後海人織田城
亦云一任右佐佐元惠殿

織田合全

信了

安永九年十二月廿五日自家人會合

初行書石の四十七庚辰年九月

成始天極 神母之能格と云方觀海に

中陽治也と云は信仁四年六月五年

南平分心養来子儀有候の万治元辰年

八月廿九日信由來平讀多入り信之長

守新

信重

信重令在書

日元
八年三月

一〇治元辰年十二月八日信重の四一五年

四月廿六日信重の四年八月十九日信重

奉公長於相見出南系死に後信重本因守

葬

信輝

信輝令在書

万治二年十二月廿五日信輝の百八の信重

二萬年三月廿七日信重の信重の信重

四月十日信重の信重の信重の信重

十月廿四日没^葬元^年十一月十日
死七十二歳日^葬

某

織田信長

信長

万治二年十一月十日没^葬元^年十一月十日
享年五十一歳日^葬

信常

織田信常

元禄四年十一月十日没^葬元^年十一月十日
享年五十一歳日^葬

信守

織田信守

宝永五年十一月十日没^葬元^年十一月十日
享年五十一歳日^葬

月十九日... 通光法皇御

天河郡... 通光法皇御

織田市十郎

之友

親信

享保十九寅年二月七日... 未年九月... 月... 拂... 之初...

沖喜... 二月...

二月...

於...

...

...

...

...

信

織田清助 後志...

四和之申年平字二月十六日大平書の天酒元
五年七月六日新田書の清村書平書

本南書平書の書及十年年六月内平書

御上流平書二

大の上流 四和之申年平字二月十六日大平書の天酒元

十月十日七年九月十日八年九月十日九年十月十日

十年十一月十二年九月十日十三年九月十日

十四年九月十日十五年九月十日十六年九月十日

十七年九月十日十八年九月十日十九年九月十日

二十年九月十日二十一年九月十日二十二年九月十日

二十三年九月十日二十四年九月十日二十五年九月十日



の心はしむる
松植平書
足金平書
うの心

平姓

平氏松植

平氏

平氏松植
松植平書

織田

平氏松植
松植平書

松植平書

松植平書

松植平書

松植平書

松植平書

平氏

寛永十三年十月廿八日
年一十月廿八日
石正弘毅の正保三年十月八日

常憲院相正延す
十月廿八日

徳松相始る
徳松相始る
徳松相始る

布衣の正暦三年
正暦三年八月廿九日
正暦三年八月廿九日

惣奉行の寛文元年
寛文元年九月廿九日
寛文元年九月廿九日

正徳元年十月廿九日
正徳元年十月廿九日
正徳元年十月廿九日

正徳元年十月廿九日
正徳元年十月廿九日
正徳元年十月廿九日

正徳元年十月廿九日
正徳元年十月廿九日
正徳元年十月廿九日

長生公之孫有孫一子如孫之少更
後之 河東之古在德政者為其少
九亦不似也知孫中一子之德也
七月百死之程也其年力保其守年

拓植平之坊

平也 善其

平代

如 西景

義德二年平於神田國自身之實文二
實年十一月出此組之日之平年十二月切

平或百儀の只平年十月六日於神田
及之弘上之信深の色

常憲院極位正教日年百九年九月五

嚴有院極位正教日年十月百九年九月

延至四年八月其父老於九月五日首石

以下年其來之及の中其書の元極十

年四月六日死時想子所其書其書

其父同年四月其父之志中其病死其書

其父其書其書其書

正信

續信

初信 松尾 西文

寛文元世年九月晦日十六日
 殿員人東出姓○日年十月日切基
 百歳○仲男内海家より仁
 日年名改中友身於去如連
 志○改中友身於去如連
 志○改中友身於去如連
 志○改中友身於去如連

○日年十月日切基

上意難有は合身好く
 改○日二富年
 ○日二卯年
 寅年正月十日
 子年七月十日
 年正月十日

寅年正月十日
 子年七月十日
 年正月十日

院所 莫所 月京 卯年 月七 卯年

○四月廿八日由行長
○四月廿九日由行長
○五月廿九日由行長
○六月廿九日由行長

西ノノ方由行長
二月廿九日由行長

徳和極少抱守○大和○大和
○大和

徳和極少遊云○大和○大和
○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

○大和

元正後白紙年二保古年并

常實後福年

一 山嶽物三幅封中記名在左龍虎

一 思之邪一門類

一 極彩色四條

一 山墨跡標物

外

一 堆木五福月

一 河香翁

一 河香翁

一 探信系山嶽物二幅

右系之存於本行所屬

山墨跡堆木五福月等系御國後連
方上權

白集

御白書文 燈台大信

元正後白紙年二保古年并

月日之依。元文三年十一月廿二日
 出仕通。日守事。年十月廿二日。有為。法。以。月
 年十一月廿二日。布。法。の。定。應。六。子。年。定。有
 初。日。守。事。の。出。仕。地。以。の。和。之。年。廿。月
 心。六。日。老。免。時。後。之。日。守。事。年。正。月。廿。日。守。死
 公。任。之。歲。半。の。保。台。守。年。廿。日。守。

心邦

御田代右大臣
 心邦

心邦
 心邦

延喜三十四年十一月廿二日。守。心邦。の。定。應。六。子。年。定。有
 二年十一月廿二日。守。心邦。の。定。應。六。子。年。定。有
 月日之依

〇元和二年二月廿二日。守。心邦。の。定。應。六。子。年。定。有
 〇寛政元年二月廿二日。守。心邦。の。定。應。六。子。年。定。有
 〇天保元年二月廿二日。守。心邦。の。定。應。六。子。年。定。有

心書

天酒舟母波子志之海

織田合治師

吉原師

本心同系年七月廿九日... 吉原師... 織田合治師... 天酒舟母波子志之海

天酒舟母波子志之海

平姓

織田

松植平左衛門正後

西並次男

松植七郎左衛門

一正筆

新治二毛... 文三...

文三...

甲寅年二月十日... 延慶三年三月十日

祿七年戊申七月十日隱居。同平
成寅年二月十日有病死。名孫田某
在東中御所。傳寺。葬。

織田又藤門 初拓植

宗重

元祿六年戊申七月十日家督。
室永二乙酉年十月十三日有病死。
同又戊子年六月十日有病死。織田度

同六年己丑年六月十日有病死。年歲
同寺葬。

織田織紋 初左助

心照

室永六己丑年八月十日有病死。年
保十一年六月十日有病死。二十三
初保名子。葬。

心取

織田七郎宗信

幼弟名

後任子樂

宗信石原平左衛門春繁之男

享保十一年九月廿日家傳。同

十九甲寅年十二月廿三日書院書

○元文之戊午年九月十二日病免小

曾信。○宝曆十二年十二月廿

九日隱居。○安永九庚子年七月廿

病死。○所中。○丸。○務。○子。○樂

織田平七郎

心取

宝曆十二年十二月廿九日家傳

○元文七庚寅年二月十二日書院書

○寶正政三年庚午年七月六日病免小

曾信。○同。○子。○年。○甲。○月。○十。○日。○家。○傳。

近者。○子。○年。○甲。○月。○十。○日。○家。○傳。

日平月吉
系格。同六月甲寅年七月廿七日病死
卒一系同吉之葬

織田定次郎

正英

寛政六年庚申年七月廿七日病死
卒一系同吉之葬

嚴有院殿清次



織田

三子百石

平姓

家次

窠拳羽蝶
桐引兩筋

禁裡より菊紋あり桐引兩筋
將軍義昭より信長あり信長
永樂通寶錢あり子紋古代
より踏巻

織田上院今信長之代出守

高長二男

長改

右書信 數馬 或給分補

對の字

年月日志まの父つりふをく初見
柳河原作付しこと○最悪の年上
月廿一日位冬位下或給分補○万治三年
十二月八日利別守院郡より所より
向交代より毎年一月親交代○
元禄三年十月廿一日元禄志まの

中台原徳寺に尋

徳寺 和信交代 或給

信の

或は 退給

元禄三年十二月廿一日家督志まの交代
柳河原○初見○父河のやく箱文乃
草掛之様第一のせは信まのゆ陰を氣
跡(紅葉柄袋入之令年押書人平目石
連務中)令改對之様取と持也

元禄元年六月十八日桐原内告作
付しきりしは後継者義親試入之令
多とていひ〇同年八月十九日病歿
善清〇同年九月廿一日表之令
柳間席之後継者義親試入之令
しりし〇寛永二年正月十一日之令
後継者下侍後継者義親試入之令
義親試入之令未とていひ〇同年
之後継者義親試入之令〇正徳二年

七月二十日位下〇享保六年二月
廿二日病歿〇同年七月廿二日位下
元文元年九月廿二日病歿

内膳 初代

信客

元禄十一年月〇賀人表之令家柳
席〇正徳二年六月廿二日病歿
〇死回守之令

信棠

夏席成於伊賀守討焉

初信延信尹信棠

實繼田左衛門信清惣領

正徳二年二月二日書子○同年十一
月廿八日賀入表○家柳乃席○享
保六年七月廿五日書子○同年
十一月廿五日○家後文信下侍從兼伊
賀守○同十八年十一月十九日討焉

改○同二十年宣二月廿六日清受孫の

賀慶〜上京信信下清推叙○

宝曆二年十一月十八日田信濃守御所

多約左補同列御所〜是左料以百

法○同十年將軍 宣下謝使松平

清信与左副上京信信上○明和二年

清揚但謝使松平左利与左副上京左

少約○同十年四月廿二日〜

東照文百二十年清信清用御所上京取

信之
貞和元年八月廿一日討つる信業
の間の織田の諸將信邦清智の時父子
の間等宋の計らひをなすに由りて致さ
し限るに依りて信之の初元年七月
廿四日死回す。葬

或約 初世の事

信之

和信將
貞和元年八月廿一日討つる信業

柳之り席 ○明和元年八月廿一日父の
智の討つ家信を討つ ○天保元年八月
二日表する柳之り席

數馬 初百名

信味

天保八年十一月廿一日初めをなする家柳
之り席

Handwritten text in the top right section, possibly a list or index.

Handwritten text in the middle right section, possibly a list or index.

東照宮御代



織田

高子石

平姓

家紋

窠舉翅蝶
桐引

攝政院殿攝位大相國位長

七男

左衛門佐治五位下

信高

和山洞

春藤千席

系が本姓寺に父生喜の時に
七歳少く濃別を同國大垣城
氏家同膳に召し入りて存書
右圖に内信の和ふりり野
字に父に親書○天正十九年大圖
の海前より扶助して近江中津
湯取を奉りて石福の同年に
月廿七日申下と信ふる御付所
名と相葉者十許り信ふる御書

そよりお母葉氏を信ふるり○
文禄四年の秋子石七月十八日申下
と信ふ○孝長四年十二月約日
東照文より秀家輝元連判の書
と信ふ信知書○同六年申下
の所信地を信ふる御書
東照文の御書方に申す御書乃
別紙信書

東照文より信○同七年十二月十二日

死年七歳葬比治と云

高

孝行 孝子

年月の志は二歳の時父死せり
孝行の志は石と云り○元和二年
多岐の地へ移りて後府にお初めの時
孝行の志は案の紋服を穿りて平士の
服を穿りて母の時に在りて病を癒す

孝子 孝行の志は二歳の時父死せり
孝行の志は石と云り○元和二年
多岐の地へ移りて後府にお初めの時
孝行の志は案の紋服を穿りて平士の
服を穿りて母の時に在りて病を癒す

後十席 江左助 清水

寛文元年十二月十日家督江別殿
地位居の自享年三十七有十日増仕。
之福八年六月十二日死六十二歳徳川
要津寺に葬

能登守 貞徳寺 平十席

信口

初長之着 信口位とあり

貞享三年七月十日家督の之福三
八月十日家督の之福位下侍
信口位也。同年八月十日伊勢
守代九月廿七日帰府也。出陣の致
之程也。及けり。 之福八年
徳川より貞席を力物候。之福八年

九月結也○寛永二年二月
清將領清海使〜上京の時位曰
佐下○同三年九月高家行前史料
官儀○同八年
文昭度敏清昇也○海使柳原式部補
副使〜考り付時 殿意少く
少物に付〜○心儀三年三月
旨位位下○寛永七年二月初日
初秋五日名○心儀二年二月初日死

寛永五年歲次庚申中清之後由昇

平右衛門 七年

元

貞享四年七月十日初初又百石○清
者初初○元禄六年正月九日死
指中家善地志也

東

西二部

平世の事記

信有

市心 和山

宝永六年十月十日
深川要津守

徳心 和山

信倉

信倉の位下

實徳勢

享保之六年十月

○同十三年十二月

○同十四年九月

○同二十年十月

○同二十一年

大酒言

○元文四年

○寛保三年九月清憲江清之版了
ついで京都に侍酒升丸是乃射副使
先んて是江清位より叙して○寛保三年
正月日経也事にして○寛保三年
十月清原位の有使友堂和泉也
副使として十一月日経湯の江少
小江と想ふ中出居代出使也
十八日○宝曆二年十月九日水戸
九

歳末海幸了清之江清之奇

信直

貴田姓肥後守信義之曾

延享三年十一月廿五日
延二年正月廿五日初日○宝曆二年
十二月五日○天保三年七月

二百〇〇年九月十日
〇天保六年九月十日
〇同六年二月

世經清苑庵
政二年二月十日
年二月十日
九月十日
〇同六年九月十日
〇同六年九月十日
〇同六年九月十日

平十席

信賢

天保六年八月十日
八月十日

大膳 和 飛文席

長孺

天保六年十月十日
十月十日

三河國...
 元...
 中...
 大...
 小...
 大...
 小...
 大...
 小...

源姓

大谷

之祖詳あり

家茂元内横木元

智統下藤元

高武百五夜

三河國...
 元...
 中...
 大...
 小...

定之 味忌市年

東照宮...
 天正元...
 新坂切通...
 徳久...

寛永二五年丁亥曾の日記
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年

定令

大谷生右衛門

万治元戊子大谷生右衛門の寛文七未年

又月廿五日大谷生右衛門の寛文元子年
八月廿五日新出書の日廿五日廿一日
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年
此代官の考案あり印年一初年

定規

大谷生右衛門

大谷生右衛門

延宝四己未年大谷生右衛門の同六年

大正六年四月廿五日
拂方出納九〇元
大正六年四月廿五日
分府元二〇元
大正六年四月廿五日
大正六年四月廿五日

定規

大正六年四月廿五日

大正六年四月廿五日

大正六年四月廿五日
大正六年四月廿五日
大正六年四月廿五日
大正六年四月廿五日

定政

大正六年四月廿五日
大正六年四月廿五日

大正六年四月廿五日

○初身牙齧頓
除○三會九年
七月廿五日
祭昔

三年年二月方拂才九納左の寛深
元為年六月六日新出友の同三四年
九月方波持の正言子印斗二月方
上級具其之在河の定言元在斗上
月方九月起る年三月末上級既迄るの廣

定延

生書 平治中

定則

大谷信房

寛延元年十一月十三日波持の正

寛延元年二月十日方波持の
定言元年三月十日方波持の
定言元年四月十日方波持の
定言元年五月十日方波持の
定言元年六月十日方波持の
定言元年七月十日方波持の
定言元年八月十日方波持の
定言元年九月十日方波持の
定言元年十月十日方波持の
定言元年十一月十日方波持の
定言元年十二月十日方波持の

定門

大谷信房

信房

寛延元年七月十日方波持の
定言元年八月十日方波持の
定言元年九月十日方波持の
定言元年十月十日方波持の
定言元年十一月十日方波持の
定言元年十二月十日方波持の

新由友のあふに年子ありけり
先の日白あふに六りけり
七ありけり
多子けり
去りけり
新江の定之助七
遊了の

定賢

大老あふ郎

三子あふ郎下程あふ子

あふ郎

あふ郎

天保四年七月
年七月
九り

高



源姓

大類

家範丸内三地紙根指

華馬遠

言百集

赤松律師利祐男赤松次郎春房尉
言のふり石と願し上野國の住人
大類
伊勢守久正の末孫

屋次

大類伊志傳

父赤松重房の國井左衛門尉不仕(平後浪
人の名を以て水二宮年(西院)下出る

○同土戌年、山内組、及、藤原、藤原、百、又、儀、○
正保、口、亥、年、山、内、仕、切、山、内、也、○、一、百、治、二
巳、年、長、士、見、山、内、也、○、三、十、又、二、百、年、病、死
○、同、十、戌、年、病、死、○、三、十、五、八、申、年、二、月
三、日、死、也、八、十、一、年、三、日、由、威、通、寺、に、死、也、

大教次郎云傳

久高

寛文十戌年、夜、傳、○、三、十、五、元、正、年

山内目付。天和二年、少細、之、在、約、○
元禄元年、六月、山、内、仕、切、山、内、也、
山、内、仕、切、山、内、也、○、天、井、の、て、く、張、を
初、日、の、幸、り、菊、地、表、を、主、二、日、目、忌、部
山、内、仕、切、二、日、目、大、教、次、郎、を、傳、有、也、
山、内、仕、切、山、内、也、○、天、井、の、て、く、張、を
組、山、内、仕、切、山、内、也、○、天、井、の、て、く、張、を
傳、有、也、

聖徳太子御
嘉祥元年癸亥之夏
百五十五同罹口

付了りて夏同月廿九日不潤法の法
不布、月追之也。元禄乙申年八月
教有院教沙法事、月追之教沙元日七
戊午十二月廿三日庵米百後とゆひ
西月廿九日死。同日廿七日死す。千歳
日七。小葬あり。

久寛

大教次郎云持

次古丈

治入

元禄八年七月十日卒。同日九子
四月廿三日也。元禄八年六月廿
日。土見也。至病。由。享保六年七月
晦。病免。同日八年七月廿三日。法住
。同日九年十月十五日死。千歳也。不
法恩也。地中。台。祥坊。小葬あり。

久鉅

其方依他也。其男。宣徳元年
大教伴云持 十歳

清楊院教沙皇之屋也修復清用之修筑五段。

同乙子年七月廿四日死年五十九歲同日。

丁亥子

為久

大教次郎左衛門 檢左郎

三子百俵

明和乙子年十月五日改葬。同六世

年十月十日卒。年六十八。安永八子

甲子十月十日卒。年六十八。同年十二月廿四日

病免。



友原姓

大頼

家後傳

其文字

言九様集老枝

大織冠鏡足分出大織太郎以家後在
代大織去依某次男

宗衍

大織七郎全書

寛永十五宮年出流の表火の妻の事
女曰卯年正月晦日死す由西方より
葬る

常房
有孝院殿山彦宗清用右御用
之屋好お種守二宮口平二宮
有孝院殿之御福の白糸子守
病免の古宗保十九宮年七月十日死
七年一系同の墓

常房

宗清之家後傳の証書
宗清の御書
人成新八郎

享保十九宮年十月九日
卯酉二月十日
又皇承平九月十九日病免の宗保二
戌年七月二日病免の宗保二
承平年七月十日死宗保二系同の
山彦守

常成

宗清の御書
人成新八郎

昭和五年八月十九日
三年十月十日
九月十日
八月十日
七月十日
六月十日
五月十日
四月十日
三月十日
二月十日
一月十日

九月十日
八月十日
七月十日
六月十日
五月十日
四月十日
三月十日
二月十日
一月十日

九月十日
八月十日
七月十日
六月十日
五月十日
四月十日
三月十日
二月十日
一月十日

九月十日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○
東京地

大葉

家長之筆

五九相

高言者

福山五郎等行旅渡亂中斐文四段人

与一屋有能惣取

福山清三郎

昌法

始末因事在任之後

東照宮御子身任地方出用寛文十九年

年十一月廿百死七于江東甲別府

中一蓮寺并

直法

和名 木葉寺并 祭之日

駿河大領之殿所造人の寛永十一年
大敵後殿之殿所造人母方姓大葉寺及
之音儀初由是定理人の葉無之平
年二月十日死に給ひ其後法皇日輪
寺并

直法

大葉寺并

大敵後殿之代指は其後代の堤守人の
追放の元禄十一年有年教免の日十二外
年二月十日死に給ひ其後法皇日輪

祐榮

和名 大葉寺并

寛文白尾年二月十日中和定日

年宣六月廿七日壬午一未日辛未

祐祥 大葉信長傳 源三郎

明和元年十一月廿七日壬午
同日七月廿九年九月廿五日癸卯
明和元年十月廿七日壬午

祐長

大葉信長傳 源三郎
大葉信長傳 源三郎

明和七年十一月廿七日壬午

安永元年十二月廿七日癸卯

明和元年十一月廿七日壬午

同日十一月廿七日壬午

同日十一月廿七日壬午

同日十一月廿七日壬午

同日十一月廿七日壬午

同日十一月廿七日壬午

同日十一月廿七日壬午



江振子同年一月廿五日
大正六年九月十八日
大正六年九月十八日

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]



